

Ⅲ 研 修

令和元年度夏季研究会

日 時 令和元年8月19日(月) 9:30~16:30
会 場 群馬県立吉井高等学校 演奏室

1 開会行事

あいさつ

清水 郁代 先生(群馬県高等学校教育研究会音楽部会副部長)

幅広い年代の先生に集まっていたきありがたい。夏季研究会は、もともとは新潟県の湯沢で、合宿形式で開催をしていたこともある。時代が変われば先生も生徒も変わっていく。音楽教育に求められるもの、任されるものも日々変わっていく。新しい時代で求められることを咀嚼し、様々なことを吸収し、実践して欲しい。今日一日が濃いものになり、先生方には今日得たことを各学校に持ち帰り生徒に還元してほしい。本日もバラエティに富んだ内容になっている。今日の活動を通して、普段悩んでいることを解決するヒントにしてもらいたい。様々なものが多様化していくが、ぜひ研究を重ね、授業改善等をつけてほしい。

2 報告発表

「令和元年度伝統音楽指導者研修会」に参加して

報告者：金田 知子 富岡高等学校 教諭
富岡 恵美 安中総合高等学校 教諭



1 授業実践コースについて(金田先生より)

今年度より開講された「授業実践コース」を受講した。明日から使えるような教材をいただいた。口三味線や箏、「六段の調」の鑑賞活動などをしながら、授業実践について他の先生方とも協議をすることができた。全国的に見て、改めて群馬県音楽部会での研修レベルの高さを実感した。配付資料は実演家である講師の先生が実際に使用しているプリントで、内容が充実している。学校に持ち帰り、大いに活用してもらいたい。

2 長唄について(富岡先生)

2日間実技をじっくり行った。長唄『雛鶴三番叟』の楽譜でわからないところを先生どうして共有し、わからないことを明確にして今回の報告を聞いていただければありがたい。長唄はなかなか取り上げられないのは、教員側も理解が進んでないからではないかと考えている。

長唄は三味線を伴奏楽器とする歌曲の一種。座り方は、正座が基本で、コツとしては膝を少し開け、足の両親指を軽く重ねて座ることでしびれにくくなる。男女で扇子の持ち方が異なる。発声は地声が基本。楽譜は「研精会譜」と呼ばれる数字譜で示される。これで音程に関しては全て表記が可能になる。「・7」は三味線の一の糸の開放弦で、最低音である。

今回の曲は「・7」がミ♭である。曲によって音は変わる。涙マークは息継ぎで、左側の数字は三味線である。

[音源をもとに抜粋部分の実技を行う]

数字をみて歌うことの難しさを感じる。これをどのように生徒に伝えるかを協議。色分けや図形楽譜がひとつの方法。ピアノなどに頼らず和楽器を用いるのが望ましい、などの意見が挙がる。

3 終わりに

他県では、群馬県のように教員が集まって研究会を開くことが少ないことがわかった。このような報告会で内容が共有できてありがたい。伝統音楽に関しては箏によりがちだが、今回の研修を通して長唄など普段取り扱わない教材も積極的に取り入れていくべきだと感じた。



3 講義

「見方・考え方」から読む新高等学校学習指導要領

講師：島田 聡 先生（群馬県教育委員会高校教育課指導主事）

1 はじめに

先生方にも考えていただく場面を設けていきたい。そもそも、学習指導要領とは、全国どこでも一定水準の教育を受けることができるようにするためのものである。授業レベルで考えると、レシピのようなもので、これまでの経験から読まなくてもつくり出すことができる、が、読んでつくり出すことで、いろいろな味が再現できる。まずは読んで、その理念や方向性を理解して、その上で先生方の個性や独自性を発揮されるといいのではないかと考える。新学習指導要領を基に先生方に工夫を重ねていただきたい。新しく加わった「見方・考え方」の観点から新学習指導要領を理解し授業につなげてほしい。移行期間であるこれからの3年間は非常に重要である。

改訂の具体的な例として音楽Ⅰ器楽の指導事項を比較する。

【現行学習指導要領】

ウ 様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。

【新学習指導要領】

器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ（ウ） 様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解すること。

ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、（ウ）表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付けること。

本質的には変わらないが、「見方・考え方」に着目するようになっている。他の変更点としては、指導事項そのものが、生徒の姿で書かれていることや、現行のエの指導事項（鑑賞領域においてはイの指導事項）として示されていた音楽を形づくっている要素の事項が、現行の小学校や中学校の学習指導要領と同じように〔共通事項〕として別項目として、独立したことなどである。

評価については、観点別評価がこれまで以上に重視されていく。芸術は観点別評価を先んじて行っている。「学習評価の在り方ハンドブック」等を活用してほしい。実技やワークシート、諸活動を通して多角的な評価を続けてほしい。今回の改訂がなんのために行われているのか、趣旨が何なのか、それらを理解することで指導要領の読み込みが深くなる。

2 ワークシートを用いた活動を取り入れながら、新学習指導要領への理解を深める。

〔あなたの「理想の授業」は何か？〕

教員どうして共有することで、共通点が見つかる。「知的好奇心、発見、感動、対話、ワクワク、主体的、気づき、学びの深まり、心が洗われる」などのキーワードが挙がる。

資質・能力について「生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」の育成を目指すことが明確に示された。

目標を

- (1)「知識及び技能」
- (2)「思考力、判断力、表現力等」
- (3)「学びに向かう力、人間性等」

の三つの柱で整理して、これらが実現できるように示した。

また、各科目の資質・能力の育成に当たっては、生徒が見方・考え方を働かせて学習活動に取り組めるようにすることを示した。「見方・考え方」に関しては、**定義**「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していく」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。**役割**各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであるから、**期待**生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること、となっている。

〔これまでの授業で「会心の出来！」と感じた授業は？〕

先生どうして体験談を共有。校長観察等で他者からの評価によるものであったり、自分自身が感じるものであったり先生によって様々だが、良い授業ができた話をする先生方の表情は明るい。

・目標について

義務教育9年間の総括としての「音楽Ⅰ」。そして柱書きに「音楽的な見方・考え方」が加わる。「音楽的な見方・考え方」とは、感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けることであると考えられる。生徒がそれができるかできないか、ではなく、教師側が考えていくべきことである。

器楽イ（イ）、ウ（イ）に着目する。

イ（イ） 曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解するためには、〔共通事項〕と関わらせた指導によって、生徒が、楽器の音色や奏法の違いが生み出す音色の特質や雰囲気を感じ、感受したことと曲想との関わりを自分自身で捉えていく過程が必要である。したがって、教師からの説明などによって、生徒が複数の楽器の音色を判別できるようになったり、その楽器の奏法を知ったりする、ということに留まるものではないことに十分留意する必要がある。

ウ（イ） 他者との調和を意識して演奏する技能には、自分と同じ声部の他者の音や、他の声部の音などとの重なりやつながりを聴きながら、自分が楽器で演奏している音の高さやリズムをそろえて演奏したり、他の声部の音量を聴きながら自分の楽器の音量を調整して演奏したり、伴奏のリズムや速度に合わせて演奏したりすることのできる技能などがある。

とあり、他者の音楽表現を聴く活動が重要で、その上で音楽を深めていくことが求められていることがわかる。その過程で、音楽的な「見方・考え方」をしていく。

〔「会心の授業」で生徒は「見方・考え方」をどんな風に働かせていたか？〕

この問について考えていくことが新学習指導要領に沿った授業改善のヒントになる。口三味線を取り上げる内容の中でも、表記されない「間」や微妙なニュアンスを考えていく活動において音楽的な「見方・考え方」ができるように、ワークシートや投げかけを工夫していく必要がある。「見方・考え方」をはたらかせるのは生徒であることを忘れない。

「見方・考え方」を働かせた授業を追究していくことが先生方の「理想の授業」に直結していく。先生方もKPT法などを活用しながら授業の見方を見直し、授業をさらに良いものにしていてもらいたい。すでに先生方はその視点に立った授業改善を行っていただいております、理想とする授業の姿に向けては「見方・考え方」に基づく深い学びが重要である。試行錯誤はまだまた続くが、生徒の学びと同じようにこんなにたくさんの仲間がいる。それがなにより嬉しいことである。

4 講義・実技演習

実技演習 : 新学習指導要領に向けた授業演習

提案授業 : 群馬県立桐生南高等学校 鈴木香奈子教諭 実感を伴った資質・能力の育成授業実践

グループ演習 : 新学習指導要領に向けたギターを用いた授業構成

1 はじめに

2学期よりギターの授業を行っている。普段行っているものを実践していきたい。ギターの授業では、1時間目にギターの種類の違いやクラシックギターの魅力について学習する。また基本的な旋律が弾けるようになったり、TAB譜が読めるようになったりした上で、2時間目に今回の授業を行っている。

2 提案授業

T : これから2パターンのきらきら星を演奏します。どちらが良いか聴いていてください。

(演奏) 1パターン目 : 弾いた音が止まったり、雑音が入ったりするような音

2パターン目 : 適度に音が伸びていて、雑音がない音
どちらが良かった? また、何が良かった?

S : 2番の方が良かった。音色が良かった。

T : 今日の目標は「きらきら星」を自分の理想の音色で演奏しようということでやっていきます。前回に引き続き、アポヤンド奏法できらきら星を練習してみよう。

S : (練習)

1人1人の音が聴けるといいと思うのだけど、みんなで演奏してみよう。クラシックギターの音色の魅力はどのようなものだったか、思い出してみてください。グループでお話をして、どんな音色で演奏をしたか考えてみよう。ギターは、はじいて音を出す撥弦楽器です。演奏をする上で理想の音色を考えて、それを目指して演奏してほしいと思います。

(WSをグループごとに配布)

Aグループ: 右手の指の使い方 Bグループ: 右手の力の使い方

Cグループ: 左手の指の使い方 Dグループ: 左手の力の使い方

4つの部分に分けて研究をしてもらいます。誕生日が一番早い人がリーダーです。まとめてください。

S : (班ごとに研究、まとめ)

T : まとめたものを、各自付箋に写してください。口でも説明をしてもらうので、おおよそでも大丈夫です。他の人に見せるので、読める字をお願いします。

S : (各自まとめたものを付箋に写す)



T：誕生日が早い人からアイウエオを順番に言ってください。それでは、新たにグループを作り直します。ア、イ、ウ、エ、オのメンバーにグループになってください。Aの人から順番に、実演をしながら説明をしてください。聴いた人は実際にその形で演奏してみましょう。

S：(班ごとに研究の成果を伝え、実演)

T：他の人の意見を受けた上で、自分の理想の音色に近づけるようにもう一度個人で練習をしてみよう。

S：(個人練習)

T：理想の音色に近づきましたか？では皆さんで演奏をしてみましょう。頭の中で理想の音色を思い浮かべることによって、より具体的に演奏ができますね。



3 発表

[Aグループ]

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

1 題材名

- 教材 教科書： 高校生の音楽Ⅰ (教育芸術社) 「いつも何度でも」
- 補助教材： ワークシート

3 本時の学習

(1) 本時の目標 (新学習指導要領の視点を踏まえて)

- ・ 音楽の諸要素 (旋律、和音、テクスチュア) を意識した演奏を工夫する。

(2) 本時の学習 (本時は 3時間扱いの 2時間目)

<p>○学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の学習活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の働きかけ及び指導上の留意点 ◎Aと判断する場合のキーワード △Cと判断される生徒への支援・働きかけ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の復習 ・ ギター2重奏を演奏する <p>○奏法による音色の違いに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G1 (旋律) の2パターンの模奏を鑑賞し、その違いについて考える。 ・ G2 (伴奏) の2パターンの模奏を鑑賞し、その違いについて考える。 ・ 個人でパートを練習する。 <p>○調和を意識して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の諸要素を意識し、全体のバランスや調和を意識し、表現意図を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律、伴奏のそれぞれのパートの奏法を確認する。 ◎旋律、伴奏の音色にふさわしい弾き方を考える。 △きれいな音色で演奏できるような奏法を工夫する。 ・ イメージや意図がないままの演奏を感受する。 ・ 流れのある旋律の良さを感受し、音が切れずに繋がるような奏法を工夫するように働きかける。 ・ 和音の根音の響きや、それ以外の構成音との響かせ方が感受できるように留意する。 ◎音楽の諸要素の特徴を理解した上で、表したい器楽表現を工夫している。 △G1G2の縦の音の重なりや、音楽の流れの中で音楽表現の豊かさや美しさに気づかせるように働きかける。

[Bグループ]

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

1 題材名 あこがれのギターを演奏しよう！

- 教材 教科書： MUOSA I
補助教材： ワークシート

2 指導の計画（全13時間）

時間	○学習のねらい ・生徒の学習活動
1	○基本的な奏法や楽器部位の名称を知る。☆教科書使用 ・実際にギターを手にして構え方、左手での持ち方や右手での弦の弾き方（左利きの場合はその逆）等の奏法の基本を確認する。 ・ギターの各部位の名称を自分の体の部位と照らし合わせながら確認する。 ・自由に音を出し、奏でることの楽しさを味わう。
2 ～ 6	○演奏練習Ⅰ（旋律）☆プリント課題使用→できる喜びを知る。 ・「カッコウ」「荒城の月」「キセキ」「木星」等、耳慣れた楽曲で単音・旋律練習し、ギターの奏法に慣れる。 ・できた生徒から順に教員へ申告し、教員の前で演奏、チェックを受ける。（毎時間） ・技術が上達した生徒も教員からの指名でチェック係となる。 ※生徒同士の奏法に関しての情報交換などを活発に行うよう、環境を整える。
7 ～ 8	○演奏練習Ⅱ（ベース）→アンサンブルの楽しさを知る。 ・「歓びの歌」←旋律とリズムが一緒でないことを知る。拍を捉える練習も兼ねる。 ・ベースのチェックが済んだ生徒は同じ段階の生徒と組んで旋律とベースで合奏する。 ※この課題の時に演奏練習Ⅰで旋律練習をした楽曲のベースが練習できるように想定して課題を考え、準備する。 ※「キセキ」の後半部分は8ビートで練習する。
9 ～ 10	○演奏練習Ⅲ（コード） ・「カッコウ」（レベル1）→「夢の中へ」（レベル2）→「スピッツの曲」（レベル3）→「ひまわりの約束」（レベル4）の様に段階を追ってコード練習をする。 ・歌唱は教員が行い、生徒はコードを弾く。 ・和音が出ない生徒は自分で原因を探る。 ※生徒本人が課題や原因に気づけるよう声かけを工夫する。
11 ～ 12	○演奏練習Ⅳ（分散和音）→コードを弾くよりも指が楽になることを知る。ギター奏法のおもしろさや奥深さを知り、さらに探求しようとする気持ちを育てる。 ・プリント課題の楽曲の伴奏を分散型リズム伴奏（ズンチャッチャツ）の練習をする。 ・より上達した奏法を工夫する。 ・様々な楽曲に応用して演奏する。
13	○最終確認のための奏法テスト→基本を押さえているかの確認 ・プリント課題の中から自信のある一曲を選び、全員の前で演奏する。 ・全員の演奏についてのチェックシート（採点表）に記入する。

[Cグループ]

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

1 題材名 ギターアンサンブルを楽しもう！～互いに感じ合っ～

- 教材 教科書： Tutti 音楽Ⅰ（教育出版）
主教材： ソナタ K331 によるギター二重奏
補助教材： きらきら星

2 指導の計画（全13時間）

時間	○学習のねらい ・生徒の学習活動
1 ～ 2	○ギターの基本について学習する。 ・きらきら星を教材とし、基本的な奏法を理解する。
3 ～ 5	○主教材について、楽譜通りにきちんと演奏できるようにする。 ①曲を歌ったり、ピアノ演奏を聴いたりして、リズムや曲想を音楽としてきちんと捉えられるようにする。 ②2～4人のアンサンブルとして、演奏の仕方を工夫する。 ・曲の始まり方、終わり方を考える。「せーのっ！」などの掛け声で始めず、ブレス、アイコンタクト、モーション等で合わせられるようにする。 ・2つの声部についてバランスを考える。Guitar 1を引き立てるような Guitar 2の演奏の仕方を工夫する。 ・Guitar 1と2でリズムが異なる部分（4小節目）について、音の重なり、長さ、間の取り方を工夫する。
6	○中間発表会をする。 ・中間発表は曲全体ではなく、特にこだわった部分のみの発表とする。 ・全員で聴きあい、コメントを付箋などに書いて各グループに渡し、意見を伝えあう。
7 ～ 8	○曲にふさわしい表現について考え、演奏を工夫する。 ・中間発表での助言を参考にし、アンサンブルとしての演奏技術を高められるよう工夫する。 ・どのように演奏したいかについてグループで話し合い、共通の目標をもったうえで、それをかなえるためにふさわしい表現の仕方を、音色、強弱、速度、テクスチャに着目して工夫する。
9	○発表会をする。 ・中間発表で受け取った付箋を一度記入者へ返却する。聴き手は返却されたコメントを参考に、グループごとに良くなった部分を考えながら聴き、新たな付箋に感想を記入する。 ・発表者は、演奏の工夫について説明してから発表をする。○基本的な奏法や楽器部位の名称を知る。

〔Dグループ〕

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

1 題材名 Happy Birthday to You のアンサンブルをしよう

○教材 教科書： 高校生の音楽Ⅰ（教育芸術社）

主教材： Happy Birthday to You

2 指導の計画（全10時間）

時間	○学習のねらい ・生徒の学習活動
1	○音階を弾いてみよう ・ドレミファソラシドの場所を探す（どの高さの音階が弾きやすいか考える） ・姿勢、持ち方を知る
2	○ギターについて知ろう ・ギターの種類と音色の違いを感じる ・弾きやすい音階の指の使い方について話し合う
3 ～	○Happy Birthday to You のメロディーを弾こう ・教科書の写真と自分の姿勢、持ち方を比べて正しい形を真似する
4	・ギターの角度や手首の向きをグループ内でアドバイスし合う ・弾きやすい音階でメロディーを弾けるようにする
5 ～	○Happy Birthday to You の伴奏を弾こう ・ダイアグラムの読み方を知る
6	・コードを押さえて弾く
7 ～	○グループでHappy Birthday to You を弾こう ・メロディー、伴奏、ベースの3人で1グループに分かれる
8	・リズムを合わせるようテンポについて話し合う ・美しい音色で弾くための指の使い方を話し合う ・表現意図、イメージについて話し合う
9 ～	○発表、鑑賞をしよう ・グループごとに発表する
1	1. 表現の意図、イメージの発表 2. 演奏
0	・他グループの音色、奏法、姿勢について評価、発表する

〔Eグループ〕

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

1 題材名 ギターアンサンブルをしよう

○ 教材 教科書： 3つのジムノペティ第1番 (Joy Of Music)

2 指導の計画 (全8時間)

時間	計画
1	・ギター各部の名称、音色
2	・全パートを弾いてみて、各パートの役割を把握する ・音色のイメージ、ふさわしい音色の探求
3	・パートごとに練習
4	・班分け→目標決め
5	・ジムノペティの曲のイメージを話し合い、音色の探求に役立てる
6	・中間発表 観点を設けたアドバイスカードを使用して聴く観点を明確化する
7	・前時で使用したアドバイスカードをもとに班で練習をする
8	・コメントシートを使用して発表 ・振り返りができるようにビデオを撮る

5 閉会行事

挨拶

大熊 信彦 先生 (群馬県高等学校教育研究会音楽部会部会長)

午前中は音楽的な見方・考え方を中心に、これまでの授業を振り返りつつ新学習指導要領についてのお話を島田指導主事からいただいた。午前中の内容が午後の授業作りの実践研究に結びついた。また、伝統的な音楽の指導者研修会成果報告はとても有意義な時間であった。指導者研修については、県からの派遣で参加しているので、成果を発表することが求められている。その趣旨に沿った内容であった。ギターを用いた授業作りでは、提案授業をきっかけに演習が深まった。いずれも新しい発見や理解の深まりがあった。この研修が生徒たちの音楽の学習や音楽活動の充実に繋がって初めて意義がある。授業実践のさらなる改善に役立てていただきたい。

6 参加者 (敬称略・順不同)

大熊 信彦 (太田女子)	清水 郁代 (吉井)	臼井 一子 (桐生特支)	島田 聡 (教育委員会)
須田 諭美 (吉井)	東 喜峰 (前橋)	井上 春美 (藤岡中央)	青柳 亮 (桐生女子)
柳田絵美子 (館高特支)	鈴木香奈子 (桐生南)	引田 麻里 (市立太田)	松平 康子 (尾瀬)
萩原 美幸 (高高特)	大小原美幸 (高高特支)	住谷 伴 (高高特支)	斎藤真里奈 (沼田女子)
井田有希子 (伊勢崎工業)	勝山 英城 (前橋商業)	野口 瑞穂 (大間々)	根岸 玲恵 (西邑楽)
木部 誠 (太田フレ)	千明 昇平 (沼田特支)	山下詩保子 (富岡特支)	川上 寛子 (伊勢崎)
児玉 理紗 (高崎女子)	金田 知子 (富岡)	戸松 久実 (吉井)	角田 幸枝 (安中総合)
富岡 恵美 (安中総合)	小川 唯佳 (利根商業)		

文責：斎藤真里奈 (沼田女子) 小川 唯佳 (利根商業)